

2022年4月3日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「みたび我が主をいなむ」

聖書：ヨハネによる福音書18：15～27

イエスが捕らえられていく。イエス一人を捕らえるのに一隊の兵士（軍隊）と千人隊長、そしてユダヤ人の下役たちを率いるという大がかりな武力、総力を挙げての逮捕劇。しかしイエスは、何の武器も持たずに、ただ一人、捕らえられていく。

イエスの逮捕後をのぞき込むペトロがいた。そこでペトロは、イエスを三度否む。何故なのか？ 自分も捕まるのが怖かったのか？ ペトロは、「あなたのためなら命を捨てる」（13:37）とまで言う。ペトロはイエスを捕らえに来た連中と剣を持って戦う準備をしていた。命を投げ出す覚悟を持っていた。しかしイエスから、「剣をさやに納めなさい」（18:11）と戦うことを阻止される。ペトロは、戦わずに捕らえられたイエスの姿に疑問を持ったのではないか？ キリストが戦わずに捕らえられ、下役どもに平手で叩かれていく。そういうみじめなイエスの姿にペトロは躓いて行く…。そして鶏が鳴く前に三度「主を否む」。

「三たび我が主を否む」ペトロに、その後のイエスの言葉に耳を傾けたい。復活後のイエスはペトロに言う。「私を愛するか、私を愛するか、私を愛するか」（21:15 以下）と。それは何か三たび主を否むことをしたペトロの一つ、一つの言葉を吹き払うかのように。主を否む罪を一つ、一つ赦して行くかのように、イエスは、「私を愛するか・・・」と問いかけてくる。ペトロの「主を否む」行為は人ごとではないように思う。私たちは三度どころではないだろう。そのような私たちもまた、赦されている者として、主に立ち返るものでありたい。時に、長い信仰生活の中で、主を否むことはあるもの。しかし、主は私たちにも立ち返ることを願っておられる。イエスの「わたしに従ってきなさい」とはどういう事なのかを深めながら。（神谷）